

平成28年7月29日

三原市議会
議長 梅本 秀明 様

会派の名称 是々非々の会
代表者氏名 安藤 志保 ⑩

会派議員派遣報告書

三原市議会政務活動費の交付に関する規則第9条の規定により、次のとおり議員を派遣しましたので報告いたします。

記

- 1 日程 H28年7月25日の1日間
- 2 派遣先 研修
「立地適正化計画—都市縮退時代の策定・運用方法」
主催：地域科学研究会
開催場所：剛堂会館
(東京都千代田区紀尾井町3-27)
- 3 派遣議員氏名 安藤志保
- 4 経費 1人当たり 25,000円、政務活動費で執行しました。
(研修会議費25,000円)
- 5 調査研究その他の活動事項
 - ・立地適正化計画と都市計画
 - ・新都市時代を導くコンパクト＋ネットワーク
 - ・地方創生との連動を目指した「高齢者・大人」と「若者・子ども」の共有生活圏づくり
 - ・「導く・保つ・つなぐ」都市像形成
- 6 調査研究その他の活動報告
別紙を添付します。

会派議員派遣報告書（別紙）

調査研究の活動報告

●立地適正化計画と都市計画

＜概要＞ 都市計画による働きかけは、①都市開発事業（公共・民間） ②都市施設をつくる／なくす ③規制による誘導 ④課税 であるが、これまでの都市計画がうまく機能してきたとは言えない。日本は土地所有者が多く、土地が細分化されており、これによって、まちの拡大期においてはスプロール現象が起き、縮小期においてはスポンジ現象が起きる。個人の住み替え・建て替えのタイミングもあり、10～30年で考えていく。人口が減る（増えない）、高齢者が増えることは避けられず、いかにうまく資源を分配するマネジメントをしていくかが立地適正化計画である。

＜感想＞ マニュアル等に添って作成するようなものではなく、それぞれのまちにおいて、人、不動産、経済などの動きを読み取り、未来に向けて、どんなまちをつくっていくかを描いていくものであると実感。「答えはない」と繰り返し言われたが、各フェーズにおける論点をあげていただけたことが良かった。

●新都市時代を導くコンパクト+ネットワーク

＜概要＞ 中心市街地活性化、金融、住宅政策、公共施設再編、地域公共交通、防災、福祉・医療、子育て・教育、農業など、多くの課題を抱える今日だが、これらは、個々に解決できる問題ではなく、全体を連立方程式で解く必要がある。そのテーブルが「立地適正化計画」であり、取り組む過程が、自治体としてのキャパシティビルディングである。都市計画マスタープランとの大きな違いは、実際に動かしていく要素が組み込まれること。

＜感想＞ 市街地の面積の60%が車のための土地（車道、駐車場）であることに、いかに人の行き来しにくい都市をつくってきたかと痛感した。「コンパクト+ネットワーク」のネットワーク部分（交通）について、多くの視点を伺えたこと、QoLの観点からの立地適正化計画の必要性を伺えたことが良かった。計画策定過程での「市民参加」が課題と感じているが、箕面市の事例は興味深い。大学との連携があつてこそという感もあるが、納得が得られる流れは必要。災害ハザードエリアを居住エリアからはずすことについては、住民理解を得るのに時間がかかったとのこと。

●「高齢者・大人」と「若者・子ども」の共有生活圏づくり

＜概要＞ 花巻市現況、平成28年6月策定の立地適正化計画の概要、誘導に向けた各種事業などを、民間の動きも含めて、ご説明いただいた。

＜感想＞ 業務委託せず、市役所内部で計画をつくっておられ、個々の決定における検討内容、

決定理由を具体的に伺うことができたこと、空き家予防など、立地適正化計画に絡めた様々な施策についても伺うことができて良かった。人口減少と高齢化が進むことに対して不安になりがちだが、立地適正化計画策定方針として、「行政が方向性を示し、宣言し、市民に安心してもらい、また期待もしてもらおう」、「民間の活力を信じる」と言われたことが非常に印象的である。

●「導く・保つ・つなぐ」都市像形成

<概要> 業務委託せず、市役所内部で計画策定中（方針案のパブコメが3月末で終了）の毛呂山町から、町にどんな課題があり、それを立地適正化計画を通じて、どのように改善・解決しようとしているかを中心にお話しいただいた。

<感想> 現状の問題の捉え方や、その問題解決をどのように立地適正化計画に盛り込むかの視点が、参考になった。担当者さんお一人で取り組んでおられるとのことで、熱意が素晴らしいと感じた。